

## 血管外漏出時の対応と課題



講演中の武田教授

医療安全に関するトピックス研修として、医療関係者を対象に「血管外漏出時の対応と課題」についての講演会が開催されました。

医薬品の安全性について研究されている、武田利明岩手県立大学看護学部教授を講師に迎えて行われました。参加者は約220名と

多く、関心の高さがうかがえました。講演は、抗がん剤と抗がん剤以外の薬剤漏出時の対処法・エビデンスについて・今後の課題という内容でした。

まとめとして、①血管外に漏出した瞬間から異物に対する組織障害は発生する、②障害の程度は抗がん剤と他薬剤で異なるが、薬液が漏れた直後は基本的に冷

平成21年8月19日（水） 県総合医療会館7階講堂

罨法（イソゾールは温罨法（機序不明））、③温罨法による薬剤の吸収は意味がない、④有効性を裏付けるデータ収集と漏れのメカニズムを明確にして血管外漏出時のケアを確立する、⑤実践家と教育研究者の連携（情報共有）が今後の課題であるとのことでした。

私たち医療者は、優れた経験知をもとにエビデンス確立のため、協力していく必要があると感じました。

（広報出版委員会 伊藤 政子）



会場の様子

## 神奈川看護学会600人集う 未来の看護師さん、縁の下の力持ち！

平成21年11月28日（土） パシフィコ横浜アネックスホール

50題の口演、示説発表があり質疑応答が活発に行われました。この学会は、協力委員（支部・教育研修委員会・三職能の委員）と学生ボランティアの協力を得て運営しています。今回は、学生ボランティアとして参加していただいた横浜創英短期大学の皆さんに感想などを伺いました。

「研究発表を聴いて学んだことを実習で生かしたい。」「認知症患者に音楽療法を行った成果の発表は、認知症の祖父のために何かできるのでは…と参考になった。」



横浜創英短期大学の皆さん

また出展企業の製品を見て「授業では得られない事があり、興味深かった。」など、とても積極的に感じる

ままに話していただきました。いつかはこの看護学会に発表者として参加して欲しいと願っています。

齋藤訓子日本看護協会常任理事の講演会『拡大する看護の役割と責任』では、「看護職の専門性をより一層発揮し、

それを活用することが安全・安心な医療提供に貢献するものと期待されています。看護行為に伴う義務には、1.危険を予測できるのか、2.危険を回避できる技術があるのか、3.危険を回避するために十分な注意を払って行っているのか、この3つの項目が大切であり、自律性と適切な判断が求められる。」という内容でした。

現場の声を日本看護協会に届けることで、現場の実践が制度をつくりまします。私たちの看護を見直すよい機会を得られたと思います。

（広報出版委員会 足立めぐみ）



講演中の齋藤氏